



サービス紹介資料



本書で使用する製品名は、各社の商標または登録商標です。
本書では™、®、©マークを省略しています。
本書は、株式会社セキュアヴェイルが権利を有します。
本書に記載された事項は、将来予告なしに変更することがあります。

① ダイレクトアクセスタイプ

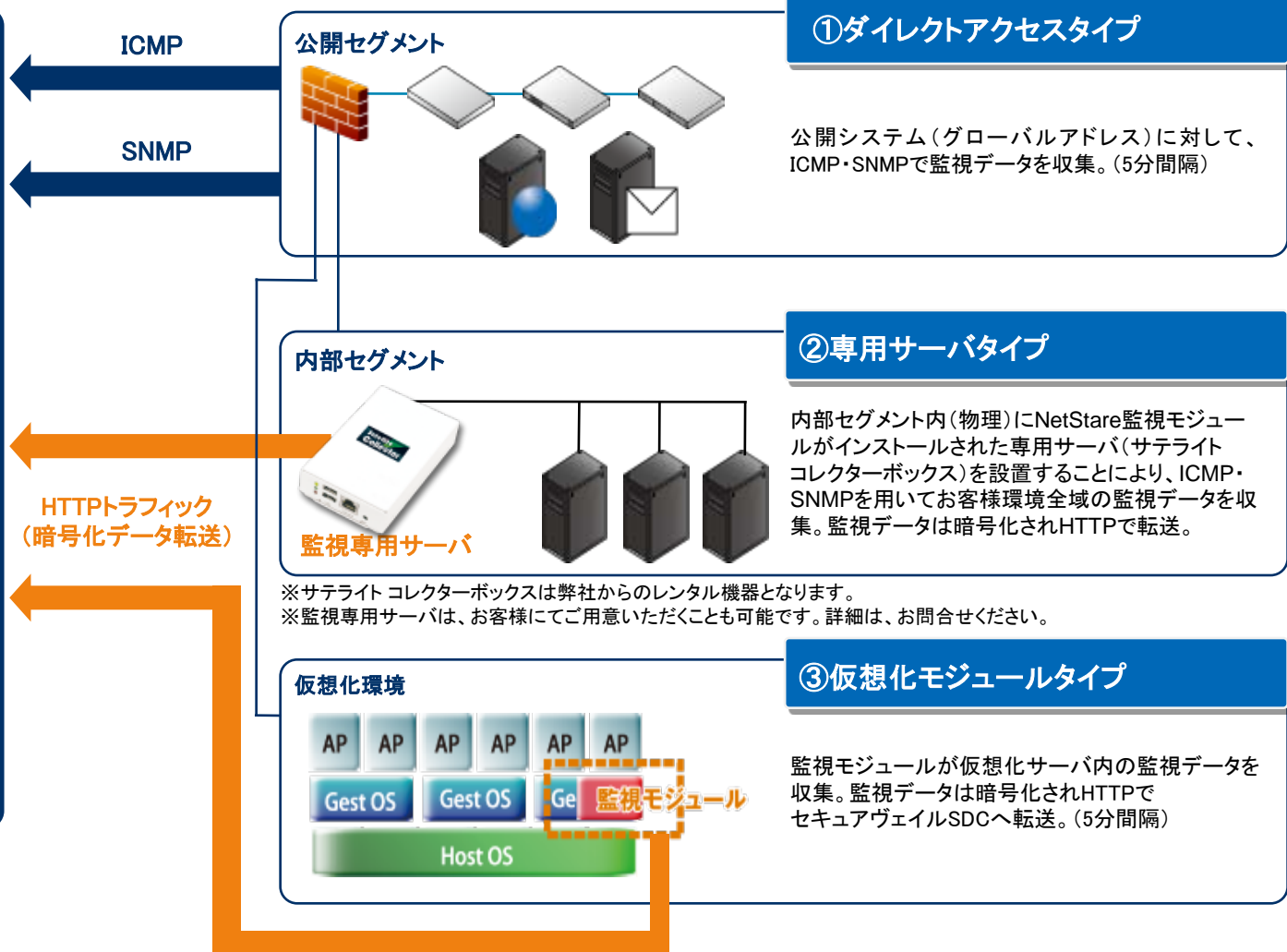
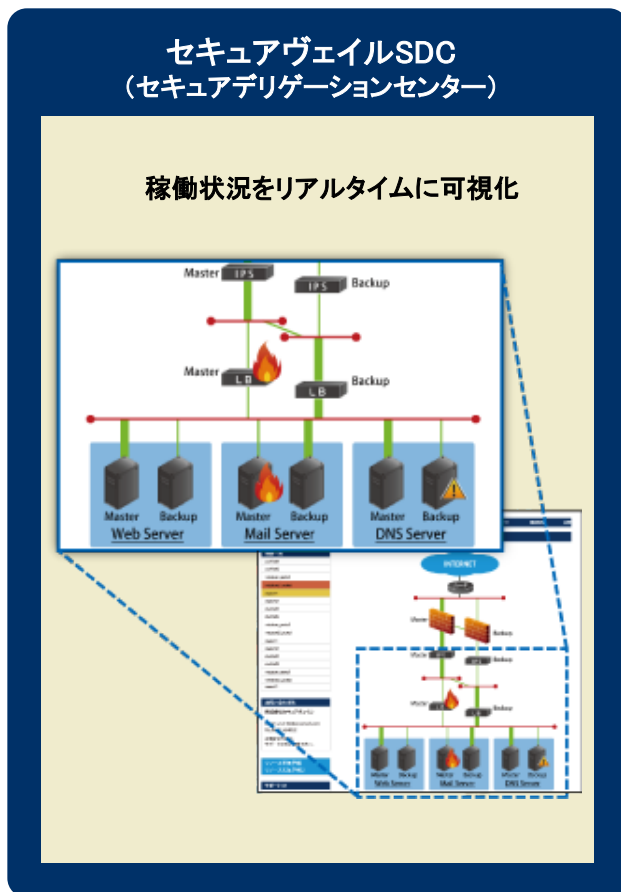
当社設備から直接お客様機器を監視します。
仮想化環境を**除く**全ての監視が可能です。(監視項目は別紙参照)

② 専用サーバタイプ

お客様環境内にNetStare監視モジュールがインストールされた専用サーバ(サテライトコレクターボックス)を設置し、お客様機器を監視します。仮想化環境を含む、全ての監視が可能です。(監視項目は別紙参照)
※サテライトコレクターボックスは、弊社からのレンタル機器となります。
※監視専用サーバは、お客様にてご用意いただくことも可能です。
OSはCentOS、その上にNetStare監視モジュールがソフトウェアとして稼働します。

③ 仮想化モジュールタイプ

お客様の仮想環境内に「仮想化用NetStare監視モジュール」をインストールし、お客様機器を監視します。
仮想化環境を含む、全ての監視が可能です。(監視項目は別紙参照)
※仮想化基盤(VMware)上で稼働可能なイメージファイル(ovfファイル)として提供します。
OS: CentOS、その上にNetStare監視モジュールがソフトウェアとして稼働します。



① ダイレクトアクセスタイプについて

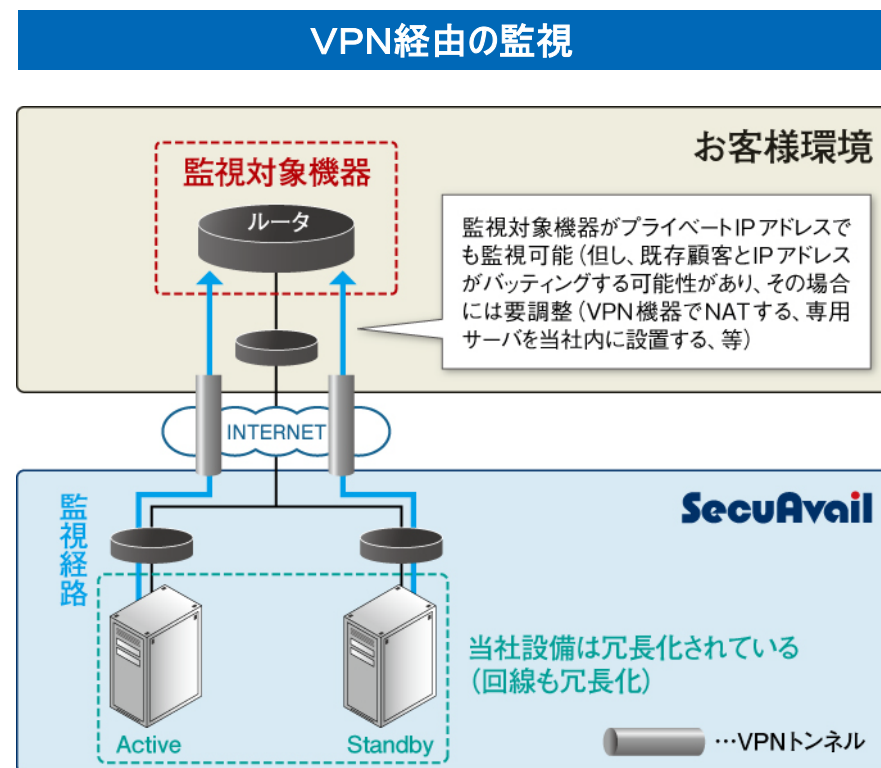
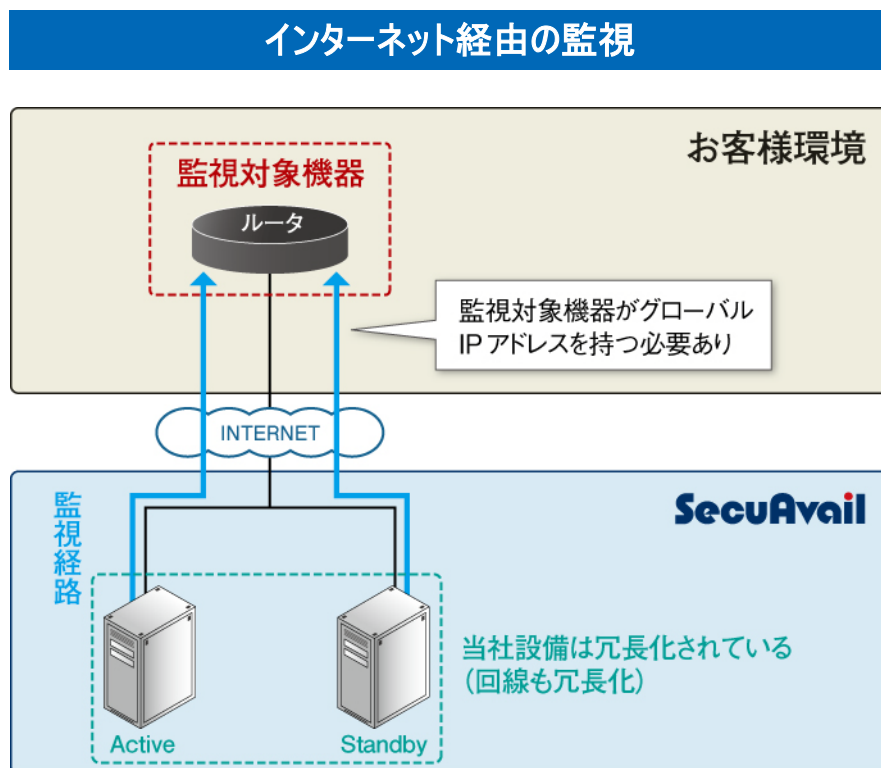
■ 監視対象機器への監視経路について

監視対象となる機器は、当社設備から監視可能である必要があるため、原則としてグローバルIPアドレスを持つ必要があります。

※VPN等を経由して監視を行う場合は、プライベートIPアドレスを持つ機器でも監視可能

■ 設備の冗長性について

当社設備は冗長化されています。(機器、監視回線の両方)



② 専用サーバタイプについて

■ 監視対象機器への監視経路について

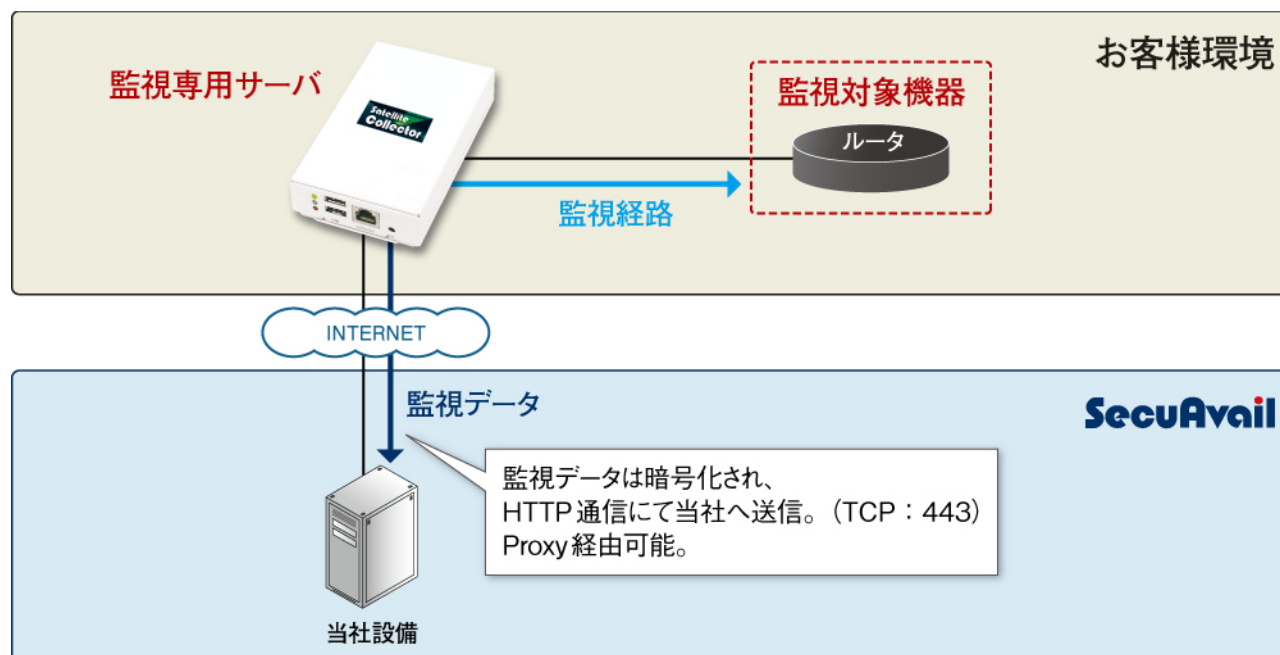
お客様環境に監視専用サーバを設置するため、監視対象機器はグローバルIPアドレス、プライベートIPアドレスのどちらでも可能です。

※監視専用サーバから監視対象機器のIPアドレスにリーチャブルであれば問題無し。

■ 設備の冗長性について

原則として、お客様側設備（監視専用サーバ）、当社設備共に単体構成です。（設備、回線共に）

※当社側設備については故障時間を最短とするために対策は実施済み。また、当社側設備故障時の監視データは監視専用サーバ内に格納され、当社側設備復旧時に再送されます。



③ 仮想化モジュールタイプについて

■ 監視対象機器への監視経路について

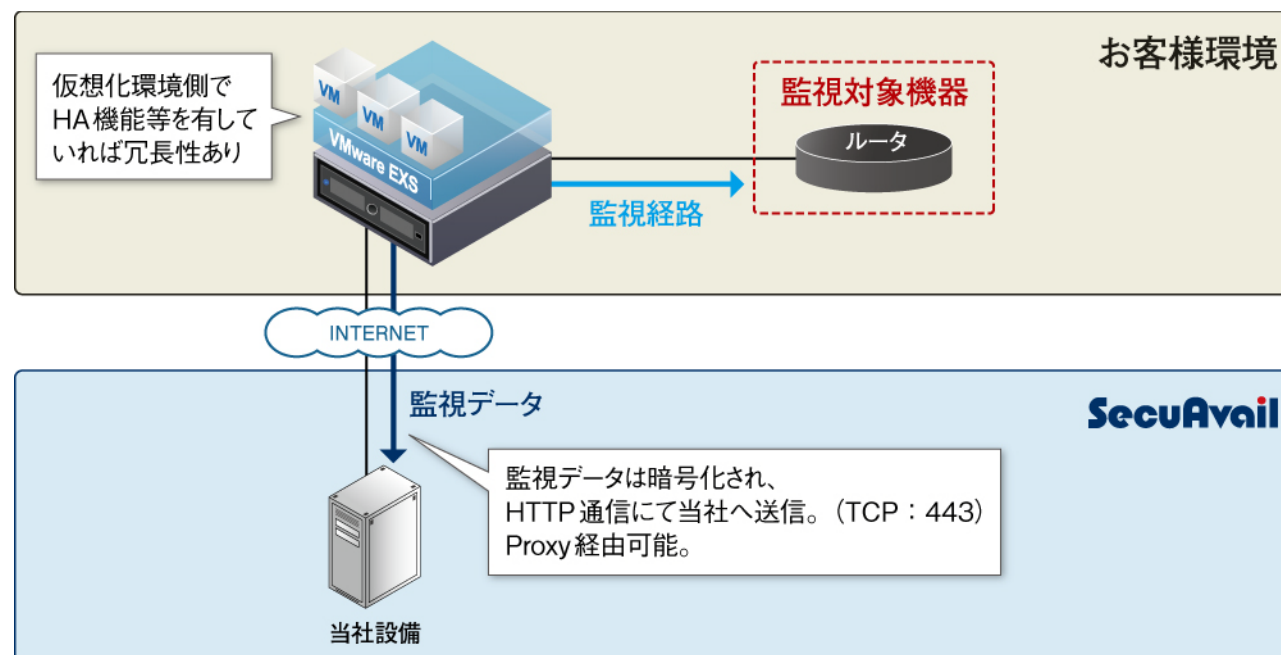
お客様環境に仮想化モジュールを設置するため、監視対象機器はグローバルIPアドレス、プライベートIPアドレスのどちらでも可能です。

※仮想化モジュールから監視対象機器のIPアドレスにリーチャブルであれば問題無し。

■ 設備の冗長性について

原則として、当社設備は単体構成です。(設備、回線共に)仮想化モジュールはお客様環境に依存します。

※当社側設備については故障時間を最短とするために対策は実施済み。また、当社側設備故障時の監視データは仮想化モジュール内に格納され、当社側設備復旧時に再送されます。



サービス対象のシステムと監視情報をリアルタイムに表現され、主に**3つの機能**で表現されています。

① ハザード機能

全体俯瞰と障害ポイントの明確化

② ドリルダウン機能

障害事象のドリルダウン調査

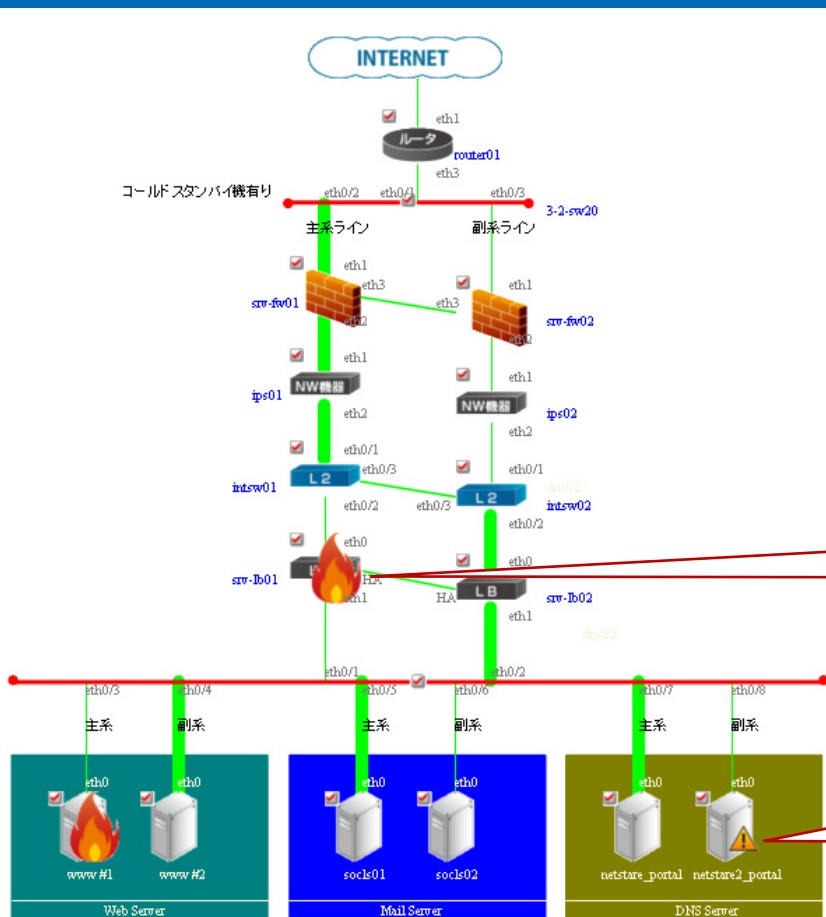
③ トラフィックリンク機能

障害による影響範囲の特定

ハザード機能

ドリルダウン機能

トラフィックリンク機能



<全体俯瞰と障害ポイントの明確化>

DSVでは、監視対象のシステム構成をWeb上に表現し、障害の発生状態(注意/警告)にある機器にハザードマークを表示します。

これにより、全体の構成を把握しつつ、個々の障害ポイントを一目で把握することができます。

【炎マーク】

3回応答ナシまたは警告閾値のオーバー

【注意マーク】

1回応答ナシまたは注意閾値のオーバー

ハザード機能

ドリルダウン機能

トラフィックリンク機能

[基本グループ] 共通サービス系
[機器名] srv-lb01

[監視項目一覧]

Ping応答確認 -172.20.40.20	正常	1.75msec
BIG-IP_CPU使用率	警告上	2%
BIG-IP_送受信バイト数 (in+out)	正常	2,213,340bps
BIG-IP_送受信バイト数 (in)	正常	2,169,980bps
BIG-IP_送受信バイト数 (out)	正常	43,360bps
BIG-IP_カレントコネクション数	正常	3,402count

縮小(現在70%)

Mail Server DNS Server

<全体俯瞰と障害ポイントの明確化>

ハザード機能で、「炎」マークが点灯した障害発生機器は、より詳細な障害の箇所をドリルダウン機能から特定することができます。

これにより、一連の障害調査プロセスをシームレスに実現することができます

監視詳細

機器名: srv-lb01 IPアドレス: 172.20.40.20(srv-lb01)
監視項目: BIG-IP_CPU使用率 最新取得時刻: 2011/10/21 18:28:19
最新障害発生: 2011/10/21 18:28:19 最新取得時刻: 2011/10/21 18:28:19

現在の値	日時	値	単位	注意値	警告値	許容回数
2	2011/10/21 18:28:19	2	%	0	0	3/3

現在の状態: 警告以上の分析結果が警告となっています。

基点日時: 2011年10月21日17時

日次表示 週次表示 月次表示

日次 (2011/10/20 17:00:00 - 2011/10/21 16:59:59)

BIG-IP_CPU使用率

日次 (2011/10/20 17:00:00 - 2011/10/21 16:59:59)

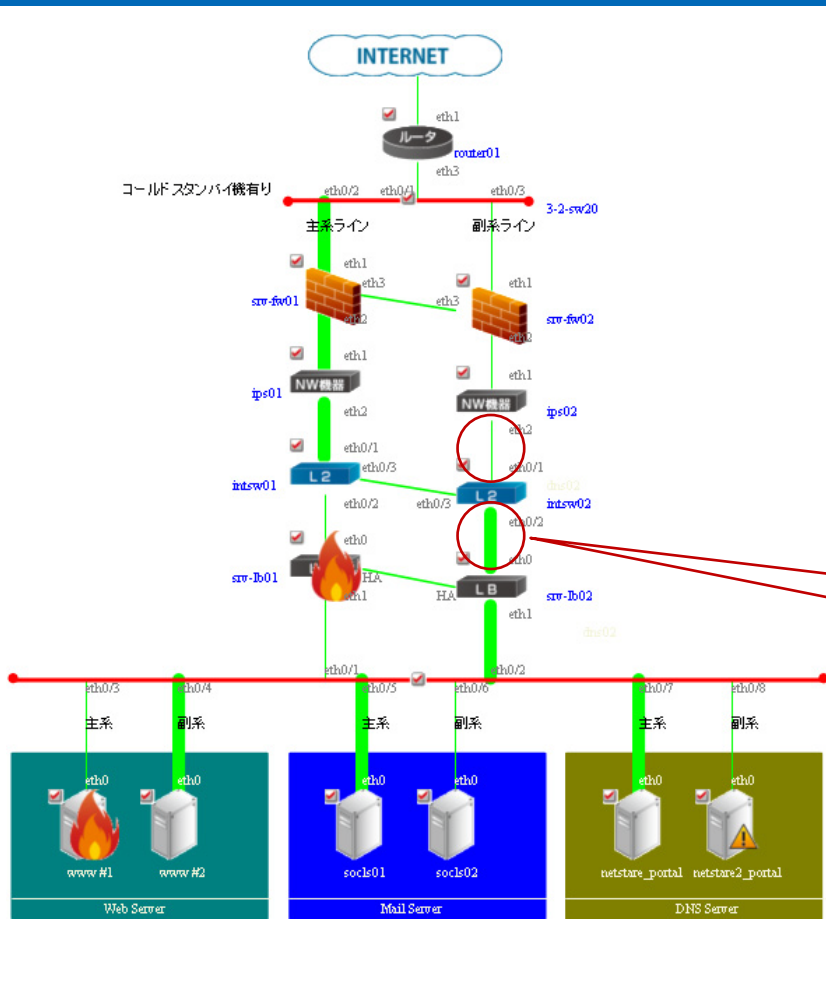
■ CPU使用率
■ 注意値
■ 警告値

日時	値	状態	注釈
2011-10-20 17:00:00	分析警告履歴	正常	監視値が警告値のまま継続しています

ハザード機能

ドリルダウン機能

トラフィックリンク機能



<障害による影響範囲の特定>

DSVにおける配線オブジェクトは、単に機器同士の接続を示しているだけではありません。

線の太さは流通するトラフィック量に応じてダイナミックに変化します。

機器の障害がシステム全体のトラフィックにどのような影響を及ぼすのか、または、トラフィックの迂回経路の状態が一目で判断できます。

【線の太さの違いに注目】

各機器を結ぶラインは、3段階の太さで表現

- Layer1 -

モニタリング状況一覧



「モニタリング状況一覧」では、サービス対象となる機器ごとに監視項目を一覧で表示します。

障害が発生している場合は、監視項目をステータスに応じて「赤(警告)」または「黄色(注意)」で表示します。

- Layer2 -

監視項目別状態表示

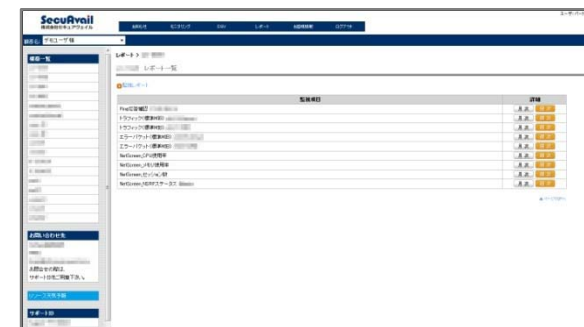


DSV、またはモニタリング状況一覧から、ドリルダウンによって、詳細な状態表示画面へ移ります。

障害が発生時には、リアルタイムのデータと、過去データを突き合わせることで、状態推移や値比較などのチェックを行なうことが可能です。

- Layer3 -

監視項目別レポート

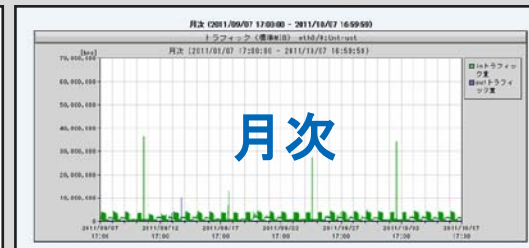
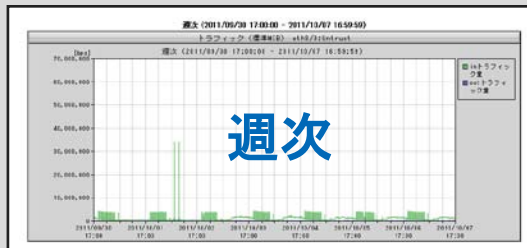
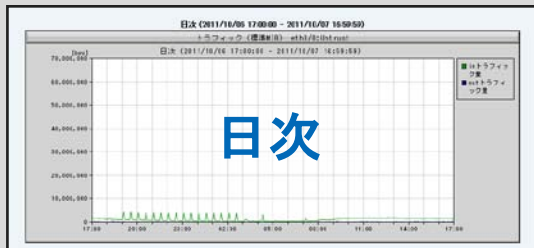


監視項目ごとに、基点日を指定した日次、週次、月次レポートをPDFまたはCSVでダウンロードすることが可能です。

バージョンや機種に依存せず、全ての機器を同一フォーマットのレポートとして管理することが可能です。

過去レポートの蓄積

稼働履歴は全て蓄積されているため「日次」「週次」「月次」といったタームで統計的なレポートをアウトプットできます。普段との違いの明確化や、障害問題発生の際を発見することができます。



さらに！

ホスト名	1週間後	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
	2011/06/14	2011/06/27	2011/07/27	2011/10/27	2012/04/27
lweb01	☀️	☀️	☀️	☁️	☔️
nsw-dc01	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
nsw-dc02	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
nsw-mg01	☁️	☔️	☔️	☔️	☔️
nsw-mg02	☀️	☀️	☁️	☔️	☔️ システムCPUの使用率：57.62%
www_01	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️ システムスワップメモリの使用率：66.41%
www_02	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️ システムCPUの使用率：40.75%
nsw-dc03	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️
nsw-dc04	☔️	☔️	☔️	☔️	☔️

過去のデータに基づいて将来のシステムリソースを予測します。1週間後、3ヶ月後、6ヶ月後、一年後におけるリソース使用を「晴れ」「曇り」「雨」のマークで表示することで、システムパフォーマンスと投資コストを最適化できます。

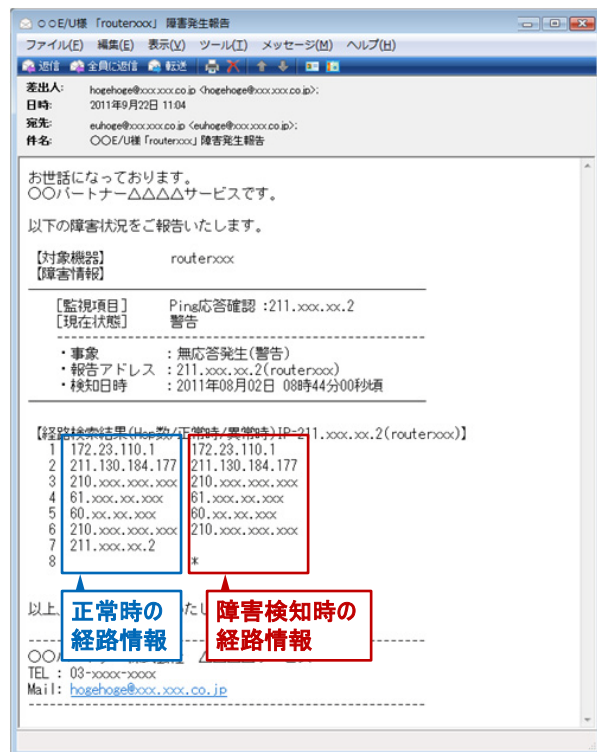
アラート機能について

例: インターネット接続ルータの「ノード監視(死活監視)」で障害を検知した場合

【ポイント】

障害が発生した時間や対象をメールでご報告するとともに、正常時と障害時(今回)のトレースルートの結果を比較してご報告します。

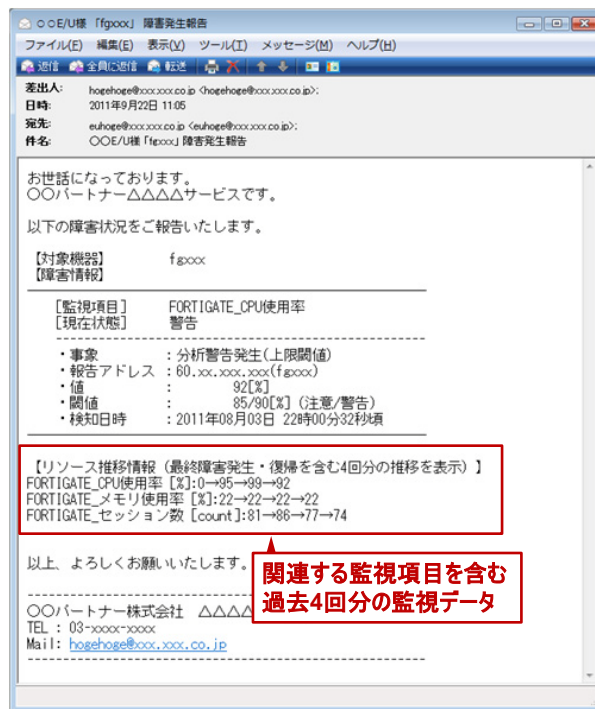
機器の問題か経路上の問題か瞬時に判断することができます。



例: インターネット接続ファイアウォールの「CPU使用率」で障害を検知した場合

【ポイント】

障害時には、過去4回分の監視データの推移を、関連する他の監視項目とあわせてメールでご報告します。能力不足なのか突発的な事象なのか、他のリソースへの影響はないのか、総合的な切り分けが可能です。



例: 社内コアスイッチの「ポートステータス」で障害を検知した場合

【ポイント】

障害が発生した時間や対象をメールでご報告するとともに、正常時と障害時(今回)のポートステータスの結果をご報告します。

資産管理表などと合わせて問題を瞬時に判断することができます。

